事前学習資料

1　カシミア号遠行の目的

種子島高校の校訓は「誠実」「気魄」「寛恕」「創造」です。カシミア号遠行は、私たちの住む種子島で明治時代に起こったカシミア号乗組員漂着にまつわる出来事を学ぶことで「寛恕」と「創造」の精神を、カシミア号漂着地からの 12.4ｋｍを歩き通すことで「誠実」「気魄」の精神を学ぶための学校行事として考えられ、実施されます。

カシミア号遠行を通して、校訓の意味を理解し、校訓を具現化できる生徒に成長することを期待します。

誠実：心身ともに健康で豊かな教養を身につけた生徒
→遠行を通して心と体を鍛えよう

気魄：ひるむことなく物事に敢然と立ち向かう生徒
→遠行をやり遂げることで壁にぶつかっても立ち向かえる精神を身につけよう

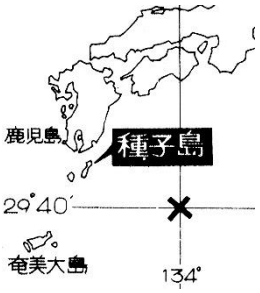
寛恕：他人への思いやりと共生の精神に満ちた生徒
→先人の「寛恕」の心を学び末永く受け継ごう

創造：創意工夫し、夢を形にする努力のできる生徒
→先人の行いに学び、よりよき未来を創造しよう

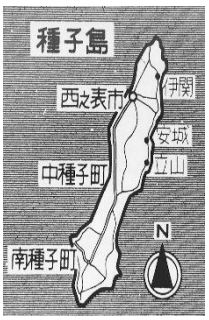
2　カシミア号漂着にまつわる出来事

明治 18 年(1885 年)9 月 11 日、アメリカの商船カシミア号が種子島南東沖で難破した。12 名の乗組員はボートや筏(いかだ)で立山、伊関に漂着。そのとき両地区の住民は見たこともない異国人を拒絶することなく、手厚く介抱し本国へ帰した。

帰国した乗組員は、彼らが受けた介抱と思いやりが、いかに優れて人間的、かつ気高いものであったかということについて、アメリカの国民に伝えた。このことはアメリカ政府にも伝わり、1889 年アメリカ合衆国大統領名で伊関・立山、両地区で中心的な役割を果たした岩坪平左衛門と古田貞吉に金メダルが、翌年には両地区に現在の価値で数億円が贈られた。贈与金は学校建設や奨学金の設立などの教育費としてその後の児童生徒達のために有効に活用された。



【台風に遭遇した場所】



【種子島の地図】


【アメリカ人漂着地の碑】



【カシミア号についての看板】